

小平西のきずな

小平西地区・地域ネットワーク ニュースNo.13

2015年3月7日（土）発行

発行責任者：草野篤子（白梅学園大学）

TEL：042-346-5639（白梅学園大学企画調整室）

住所：〒187-8570 東京都小平市小川町1-830

地域に根差す子育て広場

第9回子育てシンポジウムを終えて

ひびき

森 響生（発達臨床学科3年）

白梅子育て広場は「7つの広場」（あそぼうかい、世代間交流広場、子どもの広場、きららin白梅、気になる子の広場、ひよこの会・園庭開放、紅茶の会～オレンジ・ペコー～）と、それを組織・運営する「GP学生委員会」からなる学生主体の子育て支援団体です。白梅学園大学内や周辺地域施設を利用して企画を行い、地域の中で誰もが気軽に立ち寄り、同じ地域に住む方同士が交流することができる場所となることを目指して活動しています。

2014年度は「広がる取り組みとこれから」をテーマに活動してきました。今までの活動を継続させつつ、「これから」へ向けた新たな事にも取り組めるように尽力しました。結果として、夏季の野外企画「しゃぼん玉広場」や、初めての出張あそぼうかいとなる「上宿保育園父母の会主催 こどもまつり」へ参加することが出来ました。また12月に行われた白梅子育て広場シンポジウムの後半では「他大学生同士によるパネルディスカッション」を行うことができ、他大学との学生間だけの繋がりではなく、大学間の今後の繋がりへのきっかけの場となったことを実感しました。

また授業を通して広場活動に関わる「子育て広場特論」という保育科向けの科目が、「地域子育て支援演習」という名前に改ま

り、短大だけではなくさらに4年生大学の学生も受講できることになったため以前よりも多くの学生が白梅子育て広場に携われることになりました。

そういった変化していった部分、変化せざるを得なかった部分を含み、より良い広場活動に繋がるように、今後も全力で広場活動に取り組んでいきたいと思えます。



「西地区地域ネットワーク」って何？

2012年3月17日に、白梅学園大学関係者がさまざまなNPO、ボランティア団体、民生・児童委員会、町内会、大学・学校などに関係する方々に呼びかけて「お互いの顔が見える人間関係が豊かな地域づくり」を目指して立ち上げました。個人ベース（団体の担当者でも可）の加入を基本とする開かれたネットワークです。市民の皆さん、一緒に活動に参加なさいませんか？



12月16日西ネット懇談会講演

神明宮から見た地域コミュニティ活動

宮崎和美（小平神明宮宮司・小平神明幼稚園園長）

お招きいただきありがとうございます。神明宮と幼稚園の沿革、祭礼や西ネットのことなどについてお話しさせていただきます。

神明宮は353年前の寛文元年（1661年）に小川村氏神として、岸村（今の武蔵村山市岸）の宮崎主馬によって鎮座されました。当時の入村者は47人。荒地の開発は困難の連続でしたが、小川村の開拓は事業が順調に進んだ「成功の典型」として紹介されています。氏族社会の時代に氏の結束と発展のために立派な社殿を造り、祖先を神として祭ったのが氏神です。氏神信仰は政治権力と一体となり権力を強化するために利用されて盛んになりました。

神社と地域の結びつきの最大のものは祭礼で、4月の第4土日に、八雲神社の祭礼、万燈行列・神幸祭が行われ、境内は参拝客でごった返します。境内の露店は暴力団につながるテキヤを排除し、個人商店やボーイスカウト・社会福祉団体などが役割を分担して運営しています。

12月初めに地域青年団「小川睦会」により大注連縄を奉納し、6月と12月晦日の「大祓い」の茅の輪は氏子有志の手により製作します。1月の初詣参拝の方への甘酒無料接待に寄せられる浄財募金は地域の社会福祉団体に寄贈しています。この3年間は東日本大震災の被災地復興のために寄贈しました。1月の第3日曜日には古いお札や破魔矢などを焼く「どんど焼き」を行います。

神域を形作るものとして森（杜）が欠かせません。毎朝、ボランティアの女性が境内を

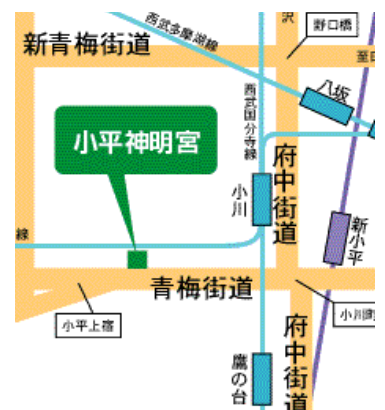
清掃し、ラジオ体操が実施されています。

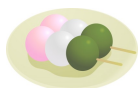
昔から「子どもは神の子」「三つ子の魂百まで」「7歳までは神の内」と言われます。3歳で覚えたことは一生忘れません。教育の大切さは言うまでもありません。七五三は子どもの成長を祝う大切な行事です。

昭和39年宗教法人立「小平神明幼稚園」を創立、今年51年目になります。氏子の戸数が減少する中、子どもや若い親御さんとの結びつきの意義は大きく、生活・遊びを通じての、学びあい・育ちあいが幼稚園の使命と考えています。施設を小学校や保育園の活動にも開放しており、最近フクシマの被災地の子どもたちの宿泊場所としても提供しました。

「楽しい地域にしようよ」で一致した顔の見える関係作りを目指す西地区ネットワークの活動に大いに期待しています。神社としてもお仲間に加えていただき地域貢献していきたい。今後ともよろしくお願ひします。

（まとめ：奈良 勝行）





中学生無料勉強会：1年目を迎えて

吉村のりお

近年、日本では富そして教育の格差が顕著になってきていると言われていています。教育の格差是正のために活動を行うことは、次の世代を育成し、日本の将来を形作るために最も重要な課題のひとつと言えます。富や教育格差は世界中で問題になっており、現在策定が進められている国際開発目標「持続可能な開発目標」では、この問題を取り上げています。その“目標1”が「すべての場所における、あらゆる形態の貧困の解消」、 “目標4”が「すべての人に対する包括的、公正かつ良質な教育の確保、生涯学習の機会促進」となっています。つまり、教育の格差是正のために日本で活動を行うことは、日本の将来のためだけでなく、国際的な活動に寄与しているといっただけではないのでしょうか？

そのようなわけで、私としてはThink globally, Act locally!という気持ち（野心？）を持ちながら、活動を続けてきた次第です。ともあれ、早いもので1年が過ぎ、最初の3年生をもうすぐ送り出すことになりました。はじめ緊張からかほとんど会話のなかった生徒が、今ではよくしゃべるようになるなど、生徒たちの学力を含めた様々な成長を見ることができるのも本活動の楽しみとなっています。



さて、私自身は理系科目を専門としているものの、時々解けない問題に出会ったりします（中学校の問題侮るなかれ！ですね）。解けないことは悔しい半面、まだまだ勉強すること、新しく覚えることがいろいろあると思うと結構楽しくもあります。

さあ！皆さんも本活動に参加して、この楽しさを味わってみませんか？また、活動に直接参加するのはなかなか大変という方も、もしよければ様々な形での参加、たとえばミスプリントなどの裏紙（機密情報が書かれていないもの）や、すでにお子さんが高校に進学された家庭では使い終わった問題集などを提供していただけると、なんとそれが国際貢献になっていたりするわけです。すごいでしょ！！

こういった活動が広がっていき、身分や性別、年齢にかかわらず誰もが“希望”を持って生きていける、そしてその“希望”が次の世代の“希望”を紡ぎだす、そんな世界が形作られることを願います。

中学生無料勉強会へのお問い合わせ

奈良勝行： ever.onward.nara@xd5.so-net.ne.jp



共同ホームつくしんぼってどんなところ？

仲川 理香 (共同ホームつくしんぼ)



共同ホームつくしんぼは、18歳以上の知的に障害のある方の生活の場として、1994年にときわ会（あさやけ作業所の法人）のグループホームとして開設しました。何らかの支援が必要な方たちが、家族から離れて自立した生活をおくるための手助けをしている所がこの共同ホームつくしんぼです。入居者は現在5人で、昼間は作業所という所で仕事をして夕方つくしんぼに帰ってきます。それぞれ自転車や徒歩、作業所の送迎の車などで通勤をしているのでご近所の方は見かけたことのある方もいらっしゃると思います。

一人ひとりの部屋は、それぞれの趣味嗜好のCD、DVD、ポスターなどが置かれご本人の意向を尊重した部屋となっています。朝、夕はみんなで食卓を囲み、時には誕生日を祝い、季節の行事を楽しむ日もあります。

メンバーは交代で野菜を切るなど食事の準備を手伝い、洗濯や掃除なども手伝ってもらいながらもできることはなるべく自分で行っています。休日は、散歩や買い物に行く方やヘルパーさんと映画を見に行くなどの遠出をする方もいます。

地域での生活を実現し、生活への意欲を育むための施設がグループホームです。親元から離れて暮らし、毎日仕事に行き、休みの日に好きな事をし、行きたい所に行く。そんな当たり前のような生活を支える場として、これからもつくしんぼはありたいと思っています。

(共同ホームつくしんぼは

小川町1丁目944-30にあります)



－高齢者クラブにおける買い物行動調査報告－

星 美里 (家族・地域支援学科4年)

私は、卒業研究の一環で、小平西地区のA高齢者クラブの方々を対象に、買い物行動に関するアンケート調査を実施しました。

本調査は、小平市西地区のA高齢者クラブの誕生日会に参加し、お時間を頂き70名の方を対象に行いました。調査方法は、その場で1つ1つ質問を読み上げ、記入して頂いたものを最後にその場で回収しました。主なアンケート内容は1.回答者自身について、2.買

い物行動について、3.商品（生鮮食料品、日用品）の入手先について、4.自由記述（買い物の際に困っていることや不便を感じる事など）です。

回答者は70名、男性18名、女性51名、その他1名、回答者の平均年齢は77.9歳です。世帯構成は一人暮らし18名 (25.7%)、夫婦26名 (37.1%)で、全体の6割以上が高齢者のみの世帯でした。買い物の移動手段（複数回

答)は、徒歩と自転車と回答した人が半数以上でした。自由記述は、主に近所に生鮮食料品店がない、移動手段が少ない、荷物が重い、今後が不安という回答が見られました。

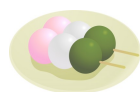
また、買い物の担い手について「友人、知人に依頼する」と回答した人は一人もいないという結果でした。先行研究の調査結果からも高齢者クラブなどでの特定の付き合いはあるが、一歩外へ出れば深くは関わらないという、付かず離れずの一定の距離間を持つ人が

多いことが伺えました。

調査で得られた近隣との人間関係の希薄さを鑑みると、地域で交流活動を行っている高齢者クラブや団体の役割や機能を見直す必要があるかもしれません。近隣の人間関係や地域住民同士の繋がりや在り方、地域の人々が繋がるきっかけとなる地域のコミュニティや高齢者クラブの在るべき姿・役割について見直していくことも、今後の課題となるのではないかと考えます。

移動手段		
	人数	%
徒歩	44	62.9
自転車	40	57.1
自分で車を運転する	10	14.3
家族の運転で行く	14	20.0
バス	13	18.6
タクシー	6	8.6

買い物の担い手		
	人数	%
自分で行く	53	75.7
配偶者が行く	20	28.6
子どもが行く	11	15.7
買い物ヘルパーに頼む	4	5.7
友人知人に依頼する	0	0



「こまくさの会」

櫻田 誠 (NPOいきがいサロン「オリーブ」顧問)

小平市小川町1丁目にある介護事業施設「NPOいきがいサロン『オリーブ』」は、開設して今年3月で14年目を迎えます。今では地域に根ざして、多くのボランティアを抱え、地域でなくてはならない存在となっております。

昨年本格的に、立ち上げたボランティアによる高齢者、障害者、介護者への支援事業として「こまくさの会」を立ち上げました。内容は、毎月第2金曜日(午後1時半から3時半まで)は、サロン(コミュニティカフェ)を開催。高齢者の方々のサロンの場です。一人住まいの方や高齢者夫婦の方々、お茶を飲みながら自由にお話し出来るサロンを提供しています(悩み事や相談事も自由にお話し頂ける場です)。

毎月第4金曜日(午後1時半から3時半まで)は、介護者を抱えておられる家族会です。現在介護されておられる方、介護経験をお持ちの方々の集まりの場です。介護の疲れ、悩みなど、自由にお話頂き、また、介護の先輩の体験談から少しでもお役にたつお手伝いの場を提供しています。専門的な事(介護、医療、役所窓口等)にも対応していません。さらに、これらの方々を対象に、ちょっとしたお手伝いを考えております。安否確認してほしい、電球が切れたので交換してほしい、箆箆の上にあるものを降ろしてほしい、重たいものを動かしてほしい、お豆腐を買ってきてほしい等などのお手伝いをします。

このような事業を展開していくには、欠かせないのがボランティアの存在です。それらの

ボランティアを育成してまいります。

これらのボランティア事業は、認定NPOの寄付金によって運営致します。現在「仮認定NPO」に向けて申請中です。仮認定の申請が通れば、仮認定3年間の実績により本認定となります。

認定の条件は、①毎年1口3,000円以上の寄付者が100名以上(役員、役員家族、寄付者の

同居家族は、カウントされません)いること

②寄付金は申請したボランティア事業に使用すること

③経理は、他の事業と別にすること

以上、この西地域の中の、介護事業施設へのご支援をよろしく願いいたします。

こまくさの会への連絡は、

042-344-7801 (担当：柳沢・丸岡)



「みんなでつくる音楽祭in小平」を開催

細江卓朗 (実行委員長)



昨年、障がい者週間の12月6日(土)の午後、中央公民館全館貸切で小平初の「みんなで作る音楽祭in小平」を開催しました。

きっかけは、2001年から仙台で行われている障がいのある人もない人も一緒に音楽を楽しむ街角コンサート「とっておきの音楽祭」のDVD「オハイエ」を2013年12月に123名

の市民が鑑賞した事です。昨年6月十数名の方が仙台に行き、「是非小平で！」との思いが結集し、9月に計画が動き出しました。

公募に応じた障がい者の方も含めた30人の実行委員が、毎週木曜日の夜中央公民館に集まり議論を重ね、わずか3ヶ月の準備期間で何とか開催にこぎつけました。

当日は、73の団体や個人の合唱、クラシック、邦楽、ジャズ、ダンスなどが、10以上の会場を使い同時進行で進みました。ボランティアスタッフと実行委員130人、2,000人の市民が集い、公民館全体が音楽やパフォーマンスで沸き立つようでした。各会場では笑いや涙のエピソードが数多く生まれ、心が温まる正にオリジナルテーマソングの「ボーダレス」が実現した音楽祭でした。



総合体育館横の雑木林

りゅうこ

足立隆子 (NPO法人こだいら自由遊びの会)

ご存知の方も多いと思いますが、市民の憩いの場でもあり子どもの遊び場でもある総合体育館の横の雑木林は、都道328号線という

道路の予定地です。長い間開放されていたこの素晴らしい樹林地は、市民がいろいろな形で活用してきました。

NPO法人こだいら自由遊びの会でも木の間にロープ遊具を作ったり、穴掘りしたりと子どもたちの成長に欠かせない外遊びの場を10年以上続けてきました。東北の震災以降は市民ボランティアと、福島のお子さんの外遊びを支援する活動の舞台にもなっています。

昨年末に東京都が樹林地の一部を取得したことから、道路予定地の境目に柵を設けて閉鎖管理をすることになりました。2月16日に単管パイプの仮柵工事が入りました(写真)。林の約3分の2位のところに柵ができて立ち入り禁止になっています。このままでは今までできていたイベント等の文化行事もできなくなってしまいます。

東京都からは、小平市から要望があれば柵なしでの開放管理もできるとの回答もいただいています。実際に道路の工事が始まるまでには時間があります。せめてその間だけでも今まで通り林の中で遊んだり、散策をしたりできるようにしていただきたいと思っています。

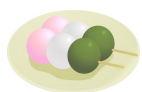
これからも林の中で音楽やダンス、パ



フォーマンスなど多彩な催し物の企画が準備されています。柵ができてしまった以上は今まで通りにはできないと思いますが、皆さんもぜひお出かけになって林の空気感を味わっていただけたらと思います(12Pのイベント欄参照)。

詳しいことは「どんぐりの会」の通信やHPをご覧ください。 <http://dongurinokai.net/>

開発のために子どもが外遊びできる場所が急速に減ってきています。こうした流れを見直していくことが必要だと思いますので、ご意見を伝えていただけると幸いです。



「いいまち あらたな発見 小川町一丁目交流広場」開催

藤川 喜久男 (シルバー大学2年)

私たち、中央公民館主催講座「シルバー大学」の2年生は、シニアの力を地域に活かすため、体験的な学習を行っています。2学期に東西の2チームに分かれて、地域の中で出会う方々との関係を築きながら、より豊かな地域づくりに少しでも貢献したいと考え、イベントを企画してきました。西チームは、12月13日(土)に、小川町一丁目地域センターを会場として、地域の皆様が楽しく交流していただけるようなイベント「小川町一丁目交流広場」を開催しました。

地域の方々からお聞きした「顔の見えるおつきあい」を念頭に置き、当日は、地域の栄養士会の皆様から災害時の非常食に関するお話や、ヨガのサークルの皆様による体験、「葉月の会」有志の方によるヨーグルトと健康に関するお話をいただき、来られた方も気軽に参加していました。

また別の部屋では、地域の高齢クラブの皆様による輪投げ、「むかし遊び応援団」によるぶんぶんごま作りやペットボトルボウリング等が行われ、年齢を問わず一緒に楽しむこ

とができました。1階にある児童館の皆様にもご協力をいただき、多くのお子さんにも参加していただきました。

ロビーでは、地域で居場所づくりをされている「ほっとスペースきよか」の皆様によるカフェが開かれ、多くの方々が和やかに席を囲み、おしゃべりを楽しんでいました。

この地域センターは、「つながり」と「環境配慮」をコンセプトにして造られたそうです。この交流広場がその願いに沿い、地域の方々にも新しいきっかけとなっただけいたら幸いです。イベントが実施できましたのも、地域の皆様のおかげです。ありがとうございました。



ロビーにておしゃべり広場「ほっとスペースきよか」

協力団体等（順不同）

地域の高齢クラブ、ほっとスペースきよか、むかし遊び応援団、どんぐりトトロ、多摩小平地域活動栄養士会、葉月の会有志、誰にでも優しいヨガで元気クラブ、小川町一丁目児童館、小川町一丁目地域センター



白梅の地域貢献への期待

金子 尚弘（発達臨床学科教員）

学校法人白梅学園は、大正14年に設立された「財団法人社会教育協会」を母体として誕生しました。当時は、義務教育を終了した後、中等教育、ましてや高等教育を受ける機会のない都市青少年、農村青少年、子女を対象とした教育が大きな課題でした。このような時代背景の中で、社会教育協会は法律や文芸の普及など、公民教育に力を注ぎ「社会教育パンフレット」や「民衆文庫」を創刊して行きました。更に、大日本聯合女子青年団の機関誌「処女の友」の発行や「婦人講座」の創刊など、女子を対象とした成人教育にも力を注ぐようになりました。戦時中も東京家庭学園を開設して家庭教育、芸術、科学、趣味教養の普及を計ってきました。戦後は、保育や心理学、福祉学など対人援助を重視した短期大学、大学として協会設立時の理念を継承しています。

現在、社会教育は生涯学習と言われるようになりましたが、私はその呼び方に違和感を覚えています。「教育」ではない、自主的な「学習」が大切であるという経緯は一見合理的なのですが、私たち一人ひとりの責任を薄めてしまうような気がするのです。社会教育が果たしてきた機能は、現代のコミュニティーに求められている役割だと思うからです。社会教育協会が果たしてきた教育機能は決して一方的な押しつけではありません。さまざまな経験と知識を持った人々が語り合い、新しい経験や知識を求める人々などが混じり合い、ともに理解し合うことは、一方的な教育や個人的な学習を越えて、共生する社会を創生することだと思います。これからも白梅学園が、理念の実践として「小平西地区・地域ネットワーク」に、その一員として参加し続けることを願って止みません。

「小平市の街づくりの特徴－生活・歴史・文化－」②

ひるたひろかず

蛭田廣一（小平市役所市史編纂課長）講演＜2014年3月＞より

3. 小平は多摩川の河川敷だった

実は小平近辺は古い時代は多摩川の河川敷だったと言われています。ですから多摩川というのはものすごい範囲、狭山丘陵から今の南多摩あたり、どんどん南の方に本流が移って行ってしまったんですが、狭山丘陵のもっと北側も含めて河川敷だった。川が移り変わることによって、火山灰や土が堆積していくという歴史的な経過をたどって武蔵野台地という関東ローム層の上に作られていくという地層的な歴史があるんですが、そういった歴史の中で、この台地上の土地になり、川と言えれば唯一、小平の中から流れている川として知られているのが石神井川です。今は流れておりません。谷になっていますが、鈴木小学校の東側のところが谷になっています。今は小金井カントリークラブの敷地になっていますが、その辺は谷で、昔は多摩川が滔々（とうとう）と流れていた場所ということが分かっています。

今年は寒気が強く入ってきているので、1月から3月にかけて寒いわけですが、なんと北極圏の氷が去年より60%ほど増えたそうです。つまりそれだけ凍結して北極圏が寒くなっている、それは間違いないようです。こんなことも含めて地球というのは寒くなったり暖かくなったりを繰り返しているということ、短いサイクルの中でも、我々はそれなりに経験をしています。

それが氷河期と言われる時代、旧石器時代に重なるわけですが、3万年から1万年くらい前までが後期旧石器時代と言われる時代です。その時代に住んでいた人が、鈴木遺跡を営んでいた旧石器時代人だったと言われているわけですね。これが発掘の結果わかったことです。

この時代というのは氷河期でもっと寒かったわけで、アジア大陸と日本がつながっていた時代です。北からはマンモスが日本列島にわたってきた、それとナウマンゾウが南からやってき

た、そしてオオツノジカという大きな鹿も生息していたということが言われています。旧石器時代の人間は農耕生活をして、自分たちの追い求めているものを狩猟して食べていたということが分かっています。そのため、そういったマンモスの後を追って、旧石器時代の人々がやってきて暮らしていた、その形跡がもの見事に鈴木遺跡に残っています。

これをなぜかという人は意外にいません。考古学者は慎重ですから、発掘した地層からどんな石器が出ましたかということはいま言うのですが、乱暴なことは決して言わないのが考古学者ですね。私は学者でもないので乱暴なことを言いますが、あそこはまさに、つまり石神井川というのは地層として川が流れだしていた。当然水もありましたから人が住めます。

それと同時にもう一つ、マンモスが何を食べていたのかということが問題なんですね。あんな大きな体をしてマンモスはコケを食べていたそうです。コケというのは低湿地に生えるわけですね。そういう大きな凶体ですからコケを食べつくせばなくなってしまいます。だからマンモスは移動せざるを得なかった。マンモスの骨が出る遺跡を分析した学者がいますが、全部低湿地にあるそうです。その1つが石神井川であり、この谷の頭のところを取り囲むように鈴木遺跡が出たという象徴的な出来事があります。しかも定住はしていませんが生活の痕跡がこの鈴木遺跡はもの見事に表れているというのが大きな特色です。

（写真は神明宮・文責：瀧口優）



小平西地区・地域ネットワーク フロック活動の報告



第1ブロック報告 (小川西町・栄町)

1月9日(火) 障害者福祉センターで第16回ブロック会議を開催しました。議題は2014年度下半期の取組みで、顔の見える地域のつながりをつくるということから、地区の民生児童委員の方々や公共施設、学校関係、高齢者クラブ、自治会、商店会などに協力して「小川西町・栄町を語る会」(仮称)のようなものを開催することを考えました。その手始めとして地区の民生児童委員の方と懇談することになりました(1月14日実施。特に白梅学園の大学として学生が関わることの意義が確認されました)。ブロックとして1年間に様々なテーマの取組みが行われていて、興味のある取組みに参加することによって「顔が見える関係」づくりをすすめるよというこでまとまりました。

2月6日(火)には第17回ブロック会議が開催され、地域文化課、小川西公民館、障害者福祉センターから2名、西ネット世話人及び第一ブロック世話人から1名の他、あすなる、十三小青少対関係者2名、白梅学園から学内世話人2名と、総勢10名が

参加しました。議題は引き続いて「顔の見える地域のつながりづくり」ですが、統一地方選挙もあるので、あわてずに次年度に向けて地域の方々のつながりをサポートする取組みを進めることになりました。なお、障害者福祉センターが主催する地域懇談会に、白梅学園がすすめる小平西地区・地域ネットワークから参加させていただくことも報告されました。また、栄町に住む世話人の仲立ちで地域のお母さん方の「ママガール」の皆さんと地域にコミュニティバスを走らせる運動をすすめてきた「コミバスの会」の懇談会に参加させていただくことも決まり、栄町にも西ネットの動きが伝えられる可能性が出てきています。

次回のブロック世話人会は3月17日(火) 18時から障害者福祉センターで行います。終了後小川駅周辺で懇親会を企画していますので、現在小川西町及び栄町地域在住で関心のある方、ぜひご参加ください(連絡先: 瀧口080-3450-6878)。

瀧口優 (第1ブロック世話人)



第2ブロック報告 (中島町・小川丁目〔西〕・上水新町1)

武蔵野美術大学学生による防災に関する研究発表

1月20日、10時~12時 武蔵野美術大学内

○防災意識に関するアンケート調査

防災週間等を定めて意識を高めていく。防災アプリの作成等。

○防災訓練への提案

エンターテイメントな防災訓練。MBT(ムサビ防サイ隊)等。

○防災を担う後継者づくり

地域と交流を図り、子どもたちが楽しめるような防災訓練を行う。ぼうさいクエスト等。



第3ブロック報告 (小川丁目〔中〕・上水新町2)



12月の懇談会翌日の17日、「ホットスペースきよか」を開催し、19名の参加がありました。地域に重度心身障害者のための施設が予定されていることで、どうやって住民の声を伝えていくかその相談も話題となりました。

12月28日には年末の「年忘れ餅つき」を開催しました。当日はいつも「きよか」に参加している近所の皆さん・一丁目交流広場の方・分かった会の方など、幼児から70歳代の方まで予想を大きく超える40人の参加者で大盛況となりました。

参加者も準備する人も「餅つき」は何年ぶりとか、田舎でやったことがある程度などと言っていた人も、いざ餅つきが始まると俄然「本気モード」になり盛り上がり「順番待ち」になるほどでした。つきあがったお餅は、あんこもち、からみ餅、きなこ餅にいただきました。「つきたてのお餅が一番おいしい！」これが参加者全員の一致した感想でした。そのまま夜まで交流は続き、男性も多く参加しています（「ほっとスペースきよか」日より No.01より）。

年が明けた1月19日は20名の方々が参加し、新年の交流と「きよか」の今後の開催方法についても

相談しました。草野先生の紹介で「世代間交流」についての学習会も行われ、多くの世代が集うことの意味を学び合いました。そして3月から月に2回開催を目標に準備していくことで確認されました。多くの方々からこのコミュニティサロンへの期待が語られています。

2月16日今年2回目の「きよか」が開催され、この日も20人を越える方々が集まり、地域に定着してきたことが伺えます。3月からはいよいよ月に2回がスタートしますが、その様子は次号で報告します。次回は3月16日（月）13時30分からです。

瀧口真央（第3ブロック世話人）



第4ブロック報告（小川町1丁目〔東〕・津田・上水1・たかの台1・上水新町3）

ほっとスペースさつき第5回ミニバザー

さつきは開所前の第1回（平成24年11月）から数えて今回で5回目のミニバザーを平成26年11月30日に開催しました。前日の雨で天気が心配でしたが、好天とはいえないまでも幸い開くことができました。10時からスタートの予定が準備段階からお客様の出足が早く、9時半から開会宣言もないままにまず野菜が、それにつられるように他のものも売れ始めました。5月の際も野菜があつという間に売切れてしまったので、今回は多めに用意してはみたものの、並べたみかん同様にまたたく間に売れてしまいました。主婦の目はさすがだと改め

年齢差94歳のさつきの世代間交流

「さつき」開所から今月末で丸2年がたちます。地域のみなさまのおかげをもちまして、その存在が少しずつ世間にも知られるようになりました。身近な人と人とのつながりだけでなく、〈さつき〉を知る方々とのつながりも大事にしていこうと決意を新たにしているところです。

ここでは〈さつき〉がまさに「ほっと」であることをご紹介したいと思います。写真を見れば歳の差94はすぐにおわかりいただけるでしょう。老若男女のなかにたった一人の幼子がいるだけで、場の雰囲気はパッと明るくなるのです。しかも明るいだけでなく気持ちまでも穏やかになってしまうのです。まさに世代交流をうたう〈さつき〉ならではのものと自画自賛しております。幼子を囲んでのおしゃべりがなんともいえず微笑ましいのです。冬の日差しの暖かさ、人と人との温

て感心させられた幸いです。

一方、主催者側からするとお買い得と思われる食器類がなかなかはけませんでした。スタッフによると若い世代はよいものでもどう使ってよいのか分からないと買わないというもので、丁寧に説明した上でお買い上げいただいたとのこと。ここでもさつきの目指す世代間交流が発揮されたかと自画自賛しています。おおむね小さくてかわいいものが高評だったように見受けられました。

平成27年も例年通り年2回、5月と11月予定のミニバザーにご期待ください。

渡辺穂積（さつき代表）

かさこれがまさしく「ほっとスペースさつき」です。まだ体験されていない方は、だまされたと思って一度お立ち寄りください。

日高文雄

開所日：火曜日、木曜日

時間：午前10時～午後4時

場所：小川公民館近くのパラソルが目印



皆さん、コミュニティ・サロン(下の①～③)と「中学生勉強会」(④)に足を運んでみませんか?

お待ちしております!

(下の地図を参照)

①ほっとスペースさつき

毎週火曜と木曜 10:00～16:00

問い合わせ: 渡辺穂積

TEL: 042-344-7412

②ほっとスペースきよか

3月16日(日) 13:30～15:30

問い合わせ: 石川貞子

TEL:090-7732-2089

③アットホームはぎ

毎月7, 17, 27日: 14:00～17:00

問い合わせ: 萩谷洋子

TEL:042-342-1738

④中学生無料勉強会(小川公民館内)

毎週木曜日 18:00～20:30

問い合わせ: 奈良勝行 (生徒募集中!)

TEL:090-4435-4306



イベントの予定

☆「自由遊びの会」 問い合わせ: 足立090-1771-7431

3月15日(日) 10時～16時半 プレーパーク

22日(日) 13時～15時 中央公園の林

★西ネットの今後の予定

学内会議: 4/3, 5/26, 6/23, 7/21, 8/4, 10/13, 12/1

世話人会: 5月12日、7月7日、9月8日、11月24日

懇談会: 6月2日、9月29日、12月15日

西ネットの世話人

ブロック	地域世話人	学内世話人
1	西 克彦	井上恵子・瀧口 優 福丸由佳・山路憲夫
2	足立隆子・早田 満 芳井正彦	関谷栄子・土川洋子 成田弘子・吉村季織
3	石川貞子・大内智恵 子久保田進・穂積健 児	金田利子・草野篤子 瀧口真央・西方規恵 牧野晶哲
4	桜田 誠・萩谷洋子 福井正徳・細江卓朗 渡辺穂積	井原哲人・杉本豊和 森山千賀子
全体		奈良勝行・長谷川俊雄

お願い: この広報紙『小平西のきずな』の編集方針は、「顔の見えるネットワークづくり」を目指して参加団体(者)の活動などを紹介し、文字通り「市民のきずな」を築いていこうとするものです。ニュースの全部または一部を改編することはお断りします。もし使用したい場合は編集担当(奈良まで)お申し出下さい。

投稿募集: このニュースレターは皆さんと一緒に作るものです。活動の報告やイベントの企画などについての原稿をお寄せください。

奈良メール: ever.onward.nara@xd5.so-net.ne.jp

編集後記

今号の『西のきずな』は、第4ブロックが編集いたしました。改めて誌面をみると、「発信し合いと結び合い」という言葉が浮かんできました。4年目となる次号は、第1ブロックが担当です。春の訪れとともに「楽しい地域にしようよ」(宮崎和美さんのお言葉)。今後とも宜しくお願いいたします。

(M)